

四半期連結貸借対照表

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	前第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
流動資産	15,321	14,954	14,418
固定資産	10,310	10,071	10,024
資産合計	25,631	25,026	24,442
流動負債	2,710	2,425	2,529
固定負債	1,060	1,033	1,046
負債合計	3,771	3,458	3,575
純資産合計	21,860	21,567	20,866
負債純資産合計	25,631	25,026	24,442

四半期連結損益計算書

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	6,721	6,260
売上総利益	2,100	2,054
販売費及び一般管理費	1,650	1,398
営業利益	450	656
経常利益	484	666
税金等調整前四半期純利益	740	666
親会社株主に帰属する四半期純利益	540	425

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	901	854
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,756	△843
財務活動によるキャッシュ・フロー	△185	△122
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,012	2,555



より詳細な情報については
IRサイトにて決算短信などを
ご覧ください。

<http://www.seikoh-giken.co.jp/>

お知らせ

当第2四半期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ
(平成29年11月10日発表)

平成29年5月12日に公表した平成30年3月期 第2四半期(平成29年4月1日～平成29年9月30日)の連結業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当初計画	6,250	350	450	500
実績	6,721	450	484	540
差異	+471	+100	+34	+40

<差異が生じた理由>

売上高につきましては、電子機器向けの金属プレス成形品や、光通信用部品の製造に使用する機器や消耗品、光通信用部品の検査・測定装置等が想定以上に好調に推移しました。

損益面では、採算性の良い製品の販売が想定を上回ったことや、金型、金属部品等の原価低減の取り組みの結果、原価率が改善し、営業利益は前回発表予想を大きく上回ることとなりました。営業外収益として見込んでいた補助金収入の計上が下期にずれ込んだものの、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも前回発表予想を上回ることとなりました。

株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	2,784名

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 毎年3月31日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063
 東京都杉並区伊和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎0120-782-031
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
 本店および全国各支店でっております。

株式会社精工技研 管理部

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401 (直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB <http://www.seikoh-giken.co.jp>

株主通信

第46期 第2四半期事業報告
平成29年4月1日～平成29年9月30日

ごあいさつ

平素は当社に対しまして格別のご支援を
賜り、誠にありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間は、フランスの光通信関連装置メーカー、DATA PIXEL SAS社を連結子会社に
加えました。また、市場のニーズを捉えた新製品も複数リリースし、
8期連続の増収に向けて収益基盤の強化を図っております。

昨年、北海道千歳市に開設した自動車部品の新工場が立ち上げ
時期にあることから、損益的には足踏みをする見通しですが、前期から
開始した中期経営計画「マスタープラン2016」の遂行を通して、継続的
に成長できる強固な企業体質づくりに引き続き取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、
今後とも一層のご理解、ご支援を
賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

上野 昌利

連結業績ハイライト

○当第2四半期(累計)の業績

当第2四半期連結累計期間における当社グループは、創立50周年となる平成33年3月期に向けて前連結会計年度から取り組み始めた中期経営計画『マスタープラン2016』に基づき、①既存事業の収益力強化、②事業ポートフォリオの最適化、③経営基盤の強化の各施策の遂行に努めました。

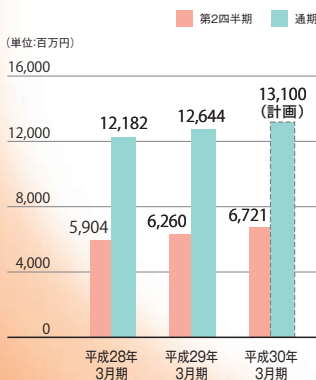
①既存事業の収益力強化に向けては、精密成形品や各種の金型、精密金属加工部品等を主力製品とする精機事業と、光通信インフラに使用される部品及びその関連機器、テレビ中継用の光伝送装置等を主力製品とする光製品関連事業の各セグメントにおいて、販売力と価格競争力を強化すると共に、新製品・新技術の開発に取り組みました。

②事業ポートフォリオの最適化に向けては、これまで持分法適用関連会社であったフランスの測定装置メーカー、DATA PIXEL SAS社の株式を追加取得して連結子会社化し、当社グループの事業領域の拡大を図りました。

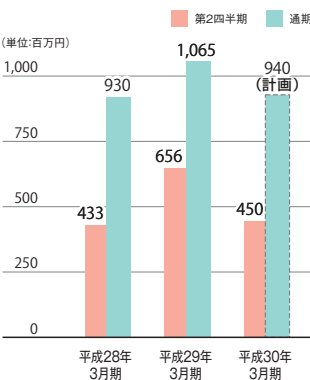
③経営基盤の強化に向けては、子会社の統治体制を強化し、将来に向けてよりシナジー効果を創出しやすいグループ体制の構築に努めました。

こうした結果、売上高は、6,721百万円(前年同期比7.4%増)と増収を達成いたしました。損益面では、採算性の良い製品の販売が伸び悩んだこと等により、営業利益は450百万円(同31.4%減)、経常利益は484百万円(同27.3%減)となりました。DATA PIXEL SAS社株式の追加取得に伴う段階取得に係る差益を特別利益に計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は540百万円(同27.2%増)となりました。

売上高

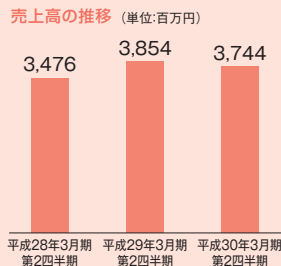


営業利益



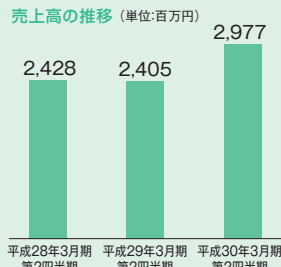
精機事業 精密金型/精密成形品/その他

精密成形品の拡販に注力するとともに、医療やバイオ等の新しい市場に向けた付加価値の高い精密成形品の開発に取り組みました。車載用成形品は、北海道千歳市の新工場への生産移管を進め、既存工場では新たな車載用成形品の量産検討を行いました。電子機器向けの金属プレス成形品の販売は、回復基調で推移いたしました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,744百万円となりました。

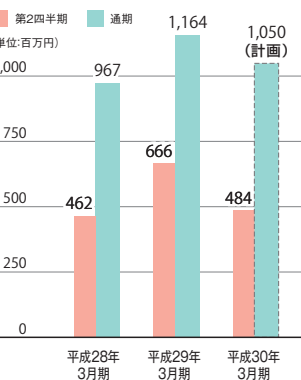


光製品事業 光通信用部品/製造機器・装置/その他

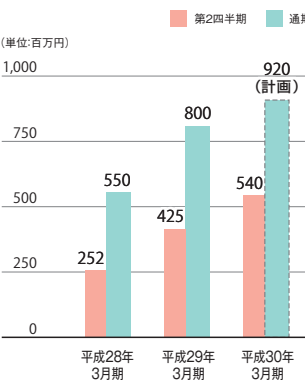
光通信用部品に対する需要の増加を背景に、当社グループは本年4月、光通信用部品の検査装置や測定装置の分野において世界的なトップブランドであるDATA PIXEL SAS社(フランス)の株式を追加取得し、連結子会社に加えました。また、光コネクタや光コネクタ研磨機等の新製品を市場にリリースしました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,977百万円となりました。



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



TOPICS 新製品のご紹介

独自技術を搭載した新製品を開発・リリースしました。

インテリジェントな機能を搭載

~LCユニブーツコネクタ~

光コネクタの需要が増加する中、新型光コネクタ「LCユニブーツコネクタ」を開発、リリースしました。



「LCユニブーツコネクタ」の特徴は、超小型で薄型、かつ上下・側面がフラットなそのフォルム。データセンター等、狭い空間に大量の光ファイバ接続を行う際、高密度で効率的な接続を可能とします。また、左右のコネクタ極性を、道具を使わずに、迅速かつ簡単に入れ替えることのできる「マイクロギア機構」(特許取得済)を搭載。敷設現場のニーズを満たす「インテリジェント」なコネクタとして、市場の注目を集めています。

発想の転換で高い操作性を実現

~新型光コネクタ研磨機 SFP-560A~

従来の研磨機は、光コネクタを装着した研磨治具を研磨盤の上に載せ、研磨治具から研磨盤へ(上から下)に押し当て、光コネクタの端面を研磨していました。このため、研磨治具を押し下げるためのアームを研磨機上部に配置する必要がありました。新型研磨機「SFP-560A」はこれまでとは逆に、空気圧で研磨盤を下から上に押し上げ、研磨治具に固定された光コネクタ端面にフィットさせて研磨する、全く新しい機構を採用(特許出願中)。その結果、アームを配置する必要がなくなり、研磨機上部の空間スペースが広がり、操作性を一段と高めることに成功しました。

